

知事記者会見の概要

日 時：令和3年3月23日(火) 10:00～10:47

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 山形県ワクチンコールセンターの開設について
- (2) 山形県PCR自主検査センターの検査開始について

代表質問

- (1) 新型コロナの感染抑制と経済の両立について
- (2) 副知事不在の影響について

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 東北DCについて
- (3) 代表質問に関連して

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

アーチェリーの中村美樹選手がこのたびですね、オリンピックの日本代表に内定となりました。本当に中村選手におめでとうと申し上げます。そして、県民とともに喜び合いたいというふうに思っております。県出身の選手としては、ボクシングの岡澤セオン選手に次いで、二人目ということでありまして、本当にオリンピックが楽しみに、ますます楽しみになってまいりました。お二人、両選手ですね、オリンピックでの大活躍を大いに期待したいというふうに思っております。

では、私から 2 点発表がございます。

まず 1 点目は、山形県ワクチンコールセンターの開設について申し上げます。

3 月の下旬からは、県が中心となって、医療従事者等向け優先接種を実施しております。来月中旬からは、各市町村で、高齢者向けの優先接種を順次開始していく予定でございます。ワクチン接種の本格化に備え、希望する県民の皆様が安心してワクチン接種を受けられるよう、ワクチンの効果や副反応などの医学的知見が必要な専門的相談をお受けする「山形県ワクチンコールセンター」を開設することといたしました。来週 29 日月曜日の午前 8 時半スタート予定でございます。そのフリーダイヤル番号がですね、0120-567690、567 が「コロナ」、69 が「ロック」で 0「ゼロ」～コロナ、ロック、ゼロ～というふうに読めると思いますので、覚えやすいかなと思います。

県民の皆様には、お気軽にご利用くださいますようお願いいたします。ワクチン接種は、新型コロナ対策の要となるビックプロジェクトです。今後とも、県と市町村が一体となって、このプロジェクトが円滑に進むよう、ワクチン接種に係る環境や体制整備に取り組んでまいります。

それから、2 点目は、山形県 PCR 自主検査センターの検査開始についてであります。

県立河北病院内に設置した「山形県 PCR 自主検査センター」は、3 月 18 日から予約を受け付けておりまして、本日の午後 2 時に検査を開始いたします。本日は、検査初日ということで、まずは 20 人の検査を行う予定というふうに聞いております。予約の状況ではありますが、3 月 18 日の予約受付開始とともに、予約の電話が入り始め、3 月 22 日までに、301 人の予約を受け付けたということでもあります。受付開始から短時間のうちに多くの申し込みがありましたので、改めて一般県民の皆さんや企業関係者の方々の感染に対する不安ですとか、ニーズといったものを感じ取ったところであります。本日から検査が開始され、センターが実働するわけではありますが、年度末に向けて県外との移動が増える時期でもございます。県民の皆さまの不安解消、そして社会経済活動の支援のために、引き続きしっかりと対応してまいりたいと考えております。私からは以上です。

☆代表質問

記者

日本経済新聞の浅山と申します。代表質問 2 点あります。

1 点目がですね、首都圏の緊急事態宣言が解除される一方で、昨日のような、県と市独自の緊急事態宣言というものも出ております。感染抑制と経済の両立を現段階でどう図っていったらいいのかということについてお願いできますでしょうか。

知事

はい。感染抑制と経済の両立というご質問であります。本県では、先週から新型コロナの感染者が急増しております。一昨日 3 月 21 日は、一日の新規感染としては過去最多となる 31 人が確認されました。昨日 22 日も 21 人でありました。2 桁の日が 5 日連続となっております。県内は第 3 波に突入している状況と捉えておきまして、急激な感染拡大に大きな危機感を持っております。特に、山形市をはじめとする村山地域に集中しております。

このため、昨日、県の危機対策本部におきまして、村山地域は、感染が拡大傾向にある状態と捉え、本県の注意・警戒レベルを、レベル 3 からレベル 4 の特別警戒に引き上げました。さらに山形市につきましては、感染が急速に拡大しておりますので、レベル 5 の非常事態に引き上げたところであります。現在は、感染抑制に全力を挙げる局面だというふうに考えております。

それで昨日、山形市と共同で独自の「県と山形市の『緊急事態宣言』」を発出しました。4 月 11 日までの期間、不要不急の外出や移動を自粛していただくことや、飲食店への呼び掛けの強化など、緊急対策を実施することとしたところであります。また、緊急事態宣言解除に伴う首都圏との往来増加にも注意を払う必要があります。そして隣県の宮城県で急激に感染が拡大し、独自の緊急事態宣言を行っていることも踏まえ、山形市とも連携して、昨日から、JR 山形駅及び山交ビル前の山形～仙台間高速バスの停留所におきまして、注意喚起のためのチラシの配布を行いました。また、羽田便が運航している庄内空港におきましてもチラシ配布を行ったところです。なお、空港では、サーモグラフィーによる検温は今でも実施しているところです。引き続き、交通事業者や施設管理者と調整を行いながら、3 月 31 日までチラシの配布や立て看板の設置を実施していく予定であります。

あわせて、全市町村に対して私と市町村長の連名で、チラシを送付し、県・市町村の連名で住民の皆様へ周知いただくよう依頼をしたところです。

感染対策の重要な柱であります新型コロナワクチン接種につきましては、本県でも 3 月 5 日から医療従事者に対して開始をしており、4 月からは、市町村が実施主体となって、高齢者などを優先して接種を進めていくこととしております。

県民の皆様がスムーズに接種を受けることができるよう、県と市町村と連携して、準備に万全を期してまいります。このワクチン接種がですね、コロナ克服の要にもなるものと

いうふうに思っております、経済回復のやはり大きな、経済回復に大きくつながるとい
うことを期待しているところであります。

それで、県内経済であります、新型コロナの感染拡大が長引く中で、非常に大きな影
響を受けておりますので、何としても、1日も早く感染拡大を抑えて、落ち着いた状況にな
るよう対策を講じてまいりたいと考えております。そして、感染が落ち着いた段階では、
経済再生に向けて、感染抑制のための制限などを緩和するとともに、プレミアム付きクー
ポン券や Go To Eat キャンペーン、また各種観光キャンペーンなどを適時的確に織り交ぜ
ながら、消費喚起策に取り組んでまいりたいと考えております。

当面は、これ以上の感染拡大を抑えることが最優先の状況でありますので、山形市はじ
め各市町村と連携して、県民の皆様、事業者の皆様のご協力をいただきながら、感染防止
の取組みをしっかりと進めたうえで、社会・経済活動との両立を図ってまいりたいという
ふうに考えております。

記者

ありがとうございます。今はそういう局面だということですね。

知事

はい。

記者

はい。もう1点、それに関連してですね、今、副知事が不在となって2週間近くにもう
すぐなるかと思えます。知事は19日の記者会見で「コロナの難局を乗り切るために継続性
を考えた苦肉の策である」というふうにおっしゃったかと思えます。

今回、副知事が不在となったことですね、実際そういう、この2週間、業務にどのよ
うな影響があったのでしょうか。また、これから、その問題点というのはどういうふう
に解消していかれるおつもりなのかお願いします。

知事

はい。副知事が不在となってから間もなく2週間が経過しますが、本県においては、3月
中旬から新型コロナの感染者数が急増しております、連日その対応に追われており、昨
日は山形市長と共同で「緊急事態宣言」を発出するなど、事態はますますひっ迫しており、
有事と言える状況に拍車がかかっております。現段階では、「コロナ克服・経済再生特命補
佐」の設置や各部局長の業務マネジメントにより、副知事不在の中ではありますが、なん
とかこの難局を凌いでいる状況にあります。しかしながら、このような緊迫した状況の下、
私を補佐し、庁内の総合調整役を担う副知事の不在が続けば、これらの目の前の差し迫っ
た課題への迅速な対応はもとより、私の行動自体も制約されることになるというふうに思

っています。県民の方々から幅広くご意見を聞くようなそういった対話の機会もですね、少なくなってしまうのではないかと懸念しておりますし、また、新年度になって県外出張とかそういったことも、出てくるかと思いますので、そういったときにどういった難しい状況が出てくるかなということは今から大変懸念をしております。

いずれにしましても、副知事不在の中でも目の前の重要課題にしっかりとかつ継続的に対応していく観点から、来週4月1日付けの人事異動におきましても、本庁の部長、次長及び主要課長は極力留任としたところであります。各部局長等がこれまで以上に力を発揮して業務のマネジメントをしっかり行って、県庁の総合力をもって、県政への影響を最小限に抑えてまいりたいというふうに考えております。

記者

そうしますと、特に現段階で副知事の関連で新しい人事を出すとかそういう動きはないということですかね。

知事

そうですね、はい。特命補佐という立場でもって今まで同様にですね、コロナの対策ということでは部局長ともまだ新年度になっておりませんので、これまでの1年前と同じようなメンバーで今しっかりと対応しておりますので、大変難しい局面になってはいますが、対応できている状況というふうに捉えておりますが、これからがやはり懸念されるというふうに私としては思っております。

記者

前回の知事会見では、また同じ方をですね、提案されるかもしれないということをおっしゃっていたのですが、この副知事の人事というのは、他の地域でもですね、議会が首長とねじれている中で人事を盾にですね、いろんな揺さぶりをかけるようなケースもあるかと思うのですが、つまり副知事であるとか副市長の人事を認めないということでは、いわゆる首長とですね、議会が対立するというケースは、まま世の中あるかと思えます。今回の場合、やはり原因を遡るとですね、いわゆる知事選の後に各一部の市に対してですね、脅しとも取られかねないようなですね、ことがあったということが大きく起因しているかと思うのですが、その点については特に今まで明確な説明をなさっていないかと思うのですが、ここは今後も特にある種、知事選の余波であるということで明確な説明はなさらないということなのでしょうか。

知事

はい。余波であるというふうに私は捉えております。はい。

記者

ただ、一方の首長、市長さんにとってはですね、こういうことをされると非常に脅しとも取られかねないわけですから、知事としてみたら「そういうつもりはない」とおっしゃってもですね、向こうは全く受止め方が違うと。今回知事が指示をされていなければ、副知事もしくは部長クラスかと、その辺くらいしかおっしゃっている方がいらっしゃらないんですけれども、そこは、はっきりされないのでしょうか。そうしないことには、次の議会でも全く話が進まないと思うのですけれども。

知事

そうですね。その件については、今申し上げるのは控えますけれども、誤解を解いていくことが大事かなというふうに思います。

記者

誤解というのは、そういうことはなかったということなんですかね。

知事

そうですね。

記者

脅しととられるようなことは一切やっていませんということなんですか。

知事

そういったことは、はい、お聞きしましたけれども、なかったというふうに思っております。

記者

お聞きしたというのは、庁内で副知事なり部長クラスなりに知事が問い合わせをされたと。

知事

はい。

記者

はい、わかりました。とりあえず、他の方お願いします。

☆フリー質問

記者

共同通信の阪口です。お世話になります。コロナ対策について伺いたいのですが、今回緊急事態宣言出されたと思います。かなり国の対応とかと比較してではありますが、迅速な対応だったんじゃないかなというふうに思いますけれども、知事がですね、緊急事態宣言を出すかどうか判断に至ったそのきっかけ、判断を始めたきっかけとかですかね、何をもって緊急事態宣言まで踏み出そうと思われたのか、いつ頃そう思われたのか、何が決定的だったのか、その辺を伺えればと思いますけれども。

知事

はい、わかりました。本当に、3月、記憶しているところでは、3月18日から2桁台となりまして、新規感染者、感染確認者数がですね、2桁台になってきて、そして、31人、一昨日の31人というように過去最多となったのは本当に大きなインパクトを覚えました。そして何よりも県民の皆さんの命と生活を守る上で、医療というところが大事でありまして、医療現場もですね、どんどんと、重症者はいなかったのですけれども、幸いなことにそこはいなかったのですが、入院者数、病床占有率というのでしょうか、それがですね、どんどんと増加したということでもあります。ここ村山地域の中の病院でありますけれども、本当に病床占有率が大変大きくなってきた。だから医療ひっ迫です、そこが大変大きいところですね。

本県の場合、3世代同居が多いし、それから高齢者が人口の中で多くを占めているということがあります。今現在は、若い人たちが、高齢者でない方たちが感染者多いわけでありましてけれども、いずれは間違いなく2週間3週間後には、高齢者のほうにそれがシフトしていくということが考えられますので、そうするとまた重症化リスクが上がってくるというふうに思います。ですからそういった先のことも見据えた時に今しっかりと抑えておかないと、医療ひっ迫、そして重症者も出てくるであろうというそういったことを考えましたので、今この時だなというふうに思ったところです。やっぱり医療ひっ迫、そして宿泊収容施設もあるのですけれども、120室とはなっておりますけれども実質は80か85室ぐらいと聞いておりますので、そこもですね、20人ぐらいずつ増えていけばそこも満室になるということでありまして、いずれにしても今のこの4日連続、5日連続ということで2桁台で推移していくと、もう大変な状況になるということを考えて、今やらなければいけないという思いで、山形市と一緒に行動を起こさせていただいたということでもあります。

記者

ありがとうございます。それに関連して、県のほうのレベルの基準の上げ下げについて、上げるほうは今回上げられたと思うのですけれども下げる基準がなかなか、上げる時よりも厳しくなっていると思うのですけれども、踏み込んでしまって、例えばこれがすぐ効果

が出るかどうか分かりませんが、仙台のほうは昨日42人ということで百何人よりはかなり下がってきている状況だと思うのですが下がってきた時に下げにくいということで、より経済的な影響が長引くのではないかとということも考えられると思うのですが、その辺はどういうふうにバランスを取っていかれるのでしょうか。

知事

そうですね、やはり経済への影響は大変心配するところであります。が、このままただだと、何もしないでいけばですね、ますますその感染が拡大して行って、それこそ経済も駄目になるというふうに思いますので、やはり今歯止めをかけておいて感染を落ち着かせて、そして経済回復に持っていく、そのことが大事なのだろうというふうに考えたところであります。また地域別に見たというところでもですね、山形県の特徴かと思えます、4ブロックに分かれておりまして、あと最上は庄内という所が、置賜もそうですけれども、それほど感染が拡大していない状況があります。庄内あたりはですね、レベルでいけばもう下げてもいいぐらいの状況が続いているのでありますけれども、ただやはり県内の移動というものもありますし、また首都圏の緊急事態宣言解除もあって、またそちらとの移動もあります。それから変異株ですね、新潟で結構出ております。福島でも出て宮城でも確認されたというようなこともありますので、変異株のこともにらみながらやはり取り組んでいかなければいけないという状況でありますので、県民の皆様には大変ご不便をおかけするのですが、意識はしっかりとレベル3に持っていただきたいという思いで、ここを維持させていただきました。

記者

あと今4月11日までという期限を決めていらっしゃると思うのですが、これは県の指標だと2週間ということの下回った場合というようなことになっていると思うのですが、そうならない場合でも例えば、1週間ぐらい前のこのゼロが続くような状態になったら緊急事態宣言を解除するというようなこともあり得るのでしょうか。

知事

そうですね、やはり感染の状況をしっかりと見据えながら、そして医療専門家の皆様のお話もお聞きしながら、そこはやっぱり柔軟に考えていければというふうに思っております。ゼロが続くようになるのが本当に、そうなってほしいなという思いであります。はい。

記者

あともう1点、逆になのではございますが、今後、今この2桁がまだ更に続くような状態になればですね、特措法に基づくですね、まん延防止等重点措置であったりとか緊急事態宣言を発出されるようなことというのは今考えていらっしゃるのか。首都圏ですと1都3県の知

事が協議されてということが大きくなりましたけれども、山形でしたら隣の宮城県なんかともかなりつながりが強いのでそのあたり協議されているような事実があれば教えてください。

知事

そうですね。村井知事とはですね、時折連絡といたしますか、お聞きしたりしながらしておりますけれども、ただ私の思うところでは山形県民のその県民性として非常に真面目、勤勉、実直というところがありまして、本当にしっかりと取り組んでくださっているところがありますので、この緊急事態宣言を山形市に発出したわけでありますので、しっかりと取り組んでいただいて、収束の方向に向かうということを私はまずは期待しております。それでもそれがその方向にいかなかった場合はまた、しっかりとそれを動向を見極めながら次の段階のことも考えなければいけない。やっぱり両にらみで取り組んでいかなければいけないかなあというふうに思っております。

記者

具体的に今何か検討、まん延防止等重点措置を考えていらっしゃるということではないという理解でいいですかね。

知事

そうですね。

記者

今のご発言であれば。

知事

はい。これまでの本県の状況を見ますと、しっかりと良い方向にしてくれるかなという思いをしております。ただもちろん準備はですね、気持ちとしてはそういったこともしっかり準備もしなければならぬという意識はあります。

記者

分かりました。ありがとうございます。

記者

時事通信の早田と申します。よろしく申し上げます。首都圏でも緊急事態宣言解除ということでそのタイミングでちょうど山形県が出すということになってしまっていて、主に市民に対してそういった自粛とかの呼びかけはされていると思うのですが、逆に今首都

圏から旅行でいろいろ地方に行こうという動きも、例えばですけれど航空券の予約とかも今まで以上に増えていたりとかそういった動きがあるのですけれども、知事から何か首都圏のほうに対してどのように対応してほしいとか、呼びかけみたいなものは何かあったりしますでしょうか。

知事

そうですね、呼びかけの中では、緊急事態宣言が解除されたからといって安全になったということではないということで、首都圏との往来は慎重にしていきたいということと呼びかけているところでありますので、やはり慎重にということをお願いしたいと思います。しかしここ山形市でも拡大ということで、10万人の比率でいくと今東京よりも多いというふうになっています。直近1週間ですね、感染確認でありますけれども。そういう状況でありますので、来る方々もその辺は慎重にされるであろうというふうに思っております。

記者

あとですね、4月から東北デスティネーションキャンペーンが始まるかと思うのですけれども。

知事

はい、そうですね。

記者

仙台、宮城も厳しい状況で、山形県、市も厳しい状況で、これからどのように対応というかされるのか教えてください。

知事

はい。本当に4月の1日から始まる東北DC、もう本当に、県を挙げて期待をしていたところでもありますけれども。東北6県で4月から予定通り開催するというので変わりはないというふうに考えておりますけれども、山形市民の皆様には緊急事態宣言期間中は不要不急の外出や移動の自粛をお願いしておりますので、旅行なども慎重にというようなことを昨日呼びかけさせていただきました。それで3月26日に山形DCの推進協議会総会というのが開催される予定でありましたけれども書面開催になると聞いておりますし、4月3日の山形駅でオープニングセレモニーをやる予定でありましたけれども、これもちょっと中止ということになると聞いております。そういった状況でありますけれどもなるべく早くとにかく収束をさせて、東北DC、6県一緒にですね、盛り上げていければというふうに思っています。そのためにも早く収束させることが大事かというふうに思います。

記者

あとごめんなさい、最後まで1点だけなのですけれども、先日東京オリンピックに関して外国人の観客の受入れがなくなったということで、山形県にも影響が少なからずあるかと思うのですが、知事、その辺の所感のほうをどうぞお願いします。

知事

はい。そうですね、やっぱりオリンピックというとやはり全世界からですね、観客の方が来日されて、そして国際色豊かにですね、スポーツ祭典ということで地方にもお出でいただいたり、いろいろな交流というものも期待できた、観光面でも大いに期待をしていたわけでありすけれども、それが致し方ないということでありすね。やはり、大変期待していただいただけに残念だとは思っておりますけれども、やはりこのコロナの状況を考えれば、致し方ないのかなという思いであります。ただ開催をされるということでありすので、本県出身の選手ももう2人内定になりましたし、日本から日本の選手、また全世界から選手はいらっしゃると思いますので、その画面を通して世界中でやはりスポーツを、祭典を楽しむことができますので、まずはその一つの、世界中で共有できる、一つ楽しみがあるというふうだね、これはやはりコロナの状況の中ではやはり人類にとって非常に大きな、私は試みであるなあというふうに思っています。映像でというのは何十年も前から楽しめているわけなのでありますけれども、オンラインというようなことが非常に、世界中に今デジタル化ということでいろいろな方法でたくさんの中の方々がこの東京オリンピック・パラリンピックの祭典をですね、楽しむということは、やはり世界中で共通した大きな喜びになるのだろうというふうに思います。コロナで非常に、何というかその沈んだ状況にある中ではありますけれども、一つの灯になるのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの藤井です。注意警戒レベルとか制限についてなのですけれども、やっぱりレベルの上げ下げの判断が難しくなっているのではないかと思うのですが、その辺率直にお聞きしたいのですが、レベル4に上げるにあたって重症者3人という指標はありますけれども、いなかったわけですね。それでもレベル3から一気に非常事態に山形市は引き上げたわけで、あと隣県との関係、宮城で急速に増えていったということも念頭にあったと思うんですけど、その辺の判断というのが指標だけ見てはできない部分があると思うんですけど、その辺の難しさ、感じましたでしょうか。

知事

そうですね、やはり今記者さんのおっしゃったとおり、重症者というところは非常に、

最後まで判断に悩んだところです。ですが、若い人が感染者多かったのですけれども、次第にですね、医療ひっ迫になってきましたし、2週間、3週間後には高齢者のほうにもそれが感染していくだろうという推測が成り立つわけなんですね。そうすると、やっぱり重症者も増えてくるということを考えますと、今この時期にということで、全体的な判断をしたところです。

おっしゃったように、隣県でありましたり、あと変異株も、本県ではまだ確認されておられませんけども、時間の問題であろうというふうな捉え方もしておりますので、総合的に判断して、しかも高齢者接種が4月の12日の週から始まるとか、DC、なるべく早く収束して一緒にやって盛り上げたいというさまざまなこともあり、本当に総合的に判断して今回のレベルを引き上げるといふことといたしました。

レベルのその数字そのものだけではなく、やはり総合的な判断ということでご理解をいただきたいというふうに思っています。

記者

宣言の期間が終わるまでの間、11日までにどういう状況を目指しますか。

知事

はい、もちろんその収束を目指したいというふうに思っています。

記者

収束というのは、どれくらいの数値ですか。

知事

数値は、もちろん最終的にはゼロになってほしいなというふうに思っています。そこまで、目指すのはやはりそこですね。

記者

引下げの判断もまた難しいと思うんですけど、非常事態宣言の解除というのはどういった部分をポイントに見て判断される予定ですか。

知事

そうですね、引下げという表も一応目安として作りましたので、あれを元に、目安にしながら総合的にやはり判断するということになります。

1年前と違うのは、やはりマスクの着用ですとか、ディスタンスを取るといった新しい生活様式というものがもう出ておりますので、そこをやはり確実に、徹底して遵守するということをしなると、案外と言いますか、そこが肝だというふうに私は思っていますので、

そこさえきっちりと徹底なれば、私は数字だけに捉われなくても総合的に判断して引き下げるということも可能ではないかというふうに思っているところです。

記者

あと、ワクチン接種のことをおっしゃっていましたが、ワクチン接種に影響が出ると、コロナがまん延すればということで、医師会も言っていましたけども、その辺のワクチン接種の進行というのも判断のポイントになるのでしょうか。

知事

はい、それも一つありました。やはりワクチン接種前にですね、新規感染者がどんどん拡大して、しかも今は若い人たちから高齢者のほうにシフトしていくことを考えますと、また医師や看護師というところ、高齢者も施設の高齢者の方もいらっしゃるし、クラスターというようなことも考えますとですね、どんどんと接種環境がよくない状況になっていくというふうに思われますので、やはりその前にもうしっかりと環境を整えなきゃいけないというふうにも思ったところです。

記者

最後に話題変わって、前副知事の件なんですけど、これ影響ないとおっしゃっていますが、要するに副知事の職務と同じようなことを引き続きされていて、あまり変わらないという理解でいいんですかね。それならそれでそのほうが、難局とおっしゃっていたわけなんですけど、普段どおり変わらずこなせているというので、県民も安心すると思いますが。

知事

それはですね、今コロナの状況、大変な局面になってきていて、しかも前副知事にはそのコロナ克服・経済再生特命補佐というミッションのある立場に就いていただきましたので、だから今しっかりと一緒になって対処してもらっています。その点で今ですね、なんとかやれているというふうに思っています。

ただ、4月からと言いますか、部局長もですね、新しく変わる人たちも、退職する方々もいて、ちょっと変わったりもしますけれども、そこも特命補佐として一緒に乗り切ってもらいたいというふうに思っておりますし、今のところは別段支障はない状況ではありますけれども、これからやはりいろいろな場面が出てくるにつれて、特に私が県庁の外に出る、あるいは県外に出張するというような場面が出てきた時に、やはり私の代理はできないので、そういったいろいろな大変なことが懸念されるなというふうに思っています。

記者

出張の時くらいしかそういった影響はなくて、実際副知事と同じような業務を庁内では

されているという理解でいいんですかね。

知事

いや、一度申し上げたと思うんですが、代決とかね、ちょっとできないこともありますので、私の仕事量は増えています。やっぱり知事を補佐する副知事でありますので、その分のところはですね、結構、やはり私自身が大変仕事量が増えていると思っていただければ。私自身はおりますので、なんとかなりますけれども、本当に休みなく働かなければならないという状況になっていますし、これからも続きますので、一生懸命全力でやりますけれども、やはり副知事がいるといないとは違いますね。

記者

仕事量が増えたのは、どういった仕事が増えたんですか。

知事

代決というようなこともありますし、やっぱり今まで以上にいろんなところに目を配らなきゃいけないということになります。総合調整をやってもらっていたので。

記者

特命補佐はそういうのはしていないんですか。

知事

コロナに関してはしてもらっていますけれども、全てに関して言えば、そうではないかもしれないということですね。一緒になって助言はしてもらっていますけれどもね。ただ、これまでとやはり範囲は違うのかなというふうに思っています。

記者

山形新聞の田中です。短くコロナ対策のことで2点お聞きします。緊急事態宣言関係です。

1点目がですね、経済との両立ということがありました。これ、例えば山形5、村山地域4ですけれども、ほかの地域はレベル3。要するにですね、全国知事会とかで感染が少ないところから連携して広域的な、例えば観光とかですね、飲食とかの振興を図ってはどうかということをこれまでも政府に提言なさってきたかと思います。なので、山形とか村山地域をまずは除いてですね、例えばほかの3ブロックあたりはですね、より観光を活性化させる、要するに力とか予算とかを振り分けるというようなこと、お考えがあるのかどうかをまずお聞きしたいというのが一つ。

もう一つが、4月はやっぱり小中学校、高校、大学と入学式があります。小中学校は山形市が学区だと思えますけれども、高校は山形市外からも生徒たちが通ってきます。ある程度、

例えば教育委員会なりですね、知事部局ではないんでしょうけども、教育委員会なり何なりかがある程度の枠というかですね、対応を作ってあげて、公立と私立があるので、そこでの差が出ないとかですね、生徒たちとか学校現場が混乱しないようなある程度のものを県、教育委員会として示してあげることも一つの道かなと思いますけども、そのあたりはどのようなふうにお考えになりますか。

知事

はい。1点目のほうでありますけれども、例えばですね、「県民泊まって元気キャンペーン」ございますけれども、これは宿泊割引キャンペーンであります。県全体で一律に一時停止というようなことはしないで、今のまま継続したいというふうに考えております。

その中で、山形市民の皆様については緊急事態宣言の期間中は自粛をお願いということになりますので、ほかの3ブロックではこれは活用していただくということになります。具体的な例を申し上げました。

それから通学でありますけれども、通勤・通学についてはですね、特にこれは不要不急ではございませんと言うか、その影響のところは別段考えていないということではありますが、そういったことも含めて教育委員会とはお話をしてみたいというふうに思っています。

やはり県民の皆さんが混乱するといけませんので、そういったことはしっかり周知をしていく必要があるかなというふうに今思ったところでございます。ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの白田です。緊急事態宣言に伴う時短営業要請についてなんですけども、効果のある対策としてここに挙げていると思うんですけれども、であれば、宣言発出と同時に時短要請ということもできると思うんですけども、時差を設けた理由を教えてください。隣の宮城県の村井知事は様子を見たかったというふうに話していましたが、吉村知事の考えを教えてください。

知事

はい。私もですね、この緊急事態宣言を発出、昨日いたしまして、そしてどのようなふうになっていくのか、どんどんと良くなって収束の経緯に向かうということであればそれはしないで済むわけでありまして、そうでなければやっぱり数日経って、やっぱり2桁が続いて、医療現場がまた大変な状況だということになれば、やはりここですね、時短をお願いせざるを得ないというふうになるかと思っています。

記者

飲食店の方からは、いつ要請されるかわからない状態が辛いという言葉がありました。目処を示すだけでも、仕入れの状況とかありますので、目処を示すだけでも全然違うと思

うのですけども、要請の目処というのは、感染状況次第だとは思うのですけども、どうお考えですか。

知事

そうですね。どうしても感染状況次第でありますけれども、本当に年度末、年度初めのね、本来でしたら書き入れ時の時期にね、本当に申し訳ないなという思いがありますけれども、まずこの感染状況を見てということではありますが、そんなに、1週間も見てということではないというふうに思います。やはり数日、もう今日で何日かな、2桁続いているの。5日ですかね。5日も続いていますからね、あとやはり2、3日も様子見て、このまままた続くのであればやはり山形市さんともお話し合いをしながら考えなきゃいけないというふうに思っています。

記者

今週中にも判断ということよろしいですか。

知事

そうですね、はい。市長さんとお話し合いをしながら考えなきゃいけないかなというふうに思っています。